

小野浩一先生のご退職にあたって

鈴木 常元

Farewell words to Professor Koichi Ono

Tsunemoto Suzuki (*Chairman of the Department of Psychology, Komazawa University*)

小野浩一先生が平成 29 年 3 月をもって、本学を定年退職されることとなった。定年まで無事に勤め上げられましたことをお慶び申し上げます。

小野先生と本学心理学科とのつながりは、そのまま本学科の歴史でもある。秋重義治先生が九州大学から本学に赴任し、1968 年に大学院に心理学専攻が作られたのが、本学における「心理学」の始まりであったが、小野先生はその最初の心理学専攻入学 3 名のうちのひとりであった。心理学専攻は、もともと日本の禅心理学研究の中心的役割を果たす学府であったが、小野先生も禅心理学、中でも「信」をテーマとして研究をされていた。その後、ライフワークでもある「行動分析学」の方にフィールドを移されたが、ハトをつかった「迷信行動」の研究をされるなど、小野先生の中では、どこかで禅心理学を研究していたときの問題意識が継続していたようである。

研究者としては、詩人・佐藤春夫の長男であり、国際行動分析学会会長もつとめた慶応義塾大学の佐藤方哉先生のもとで学位を取得され、小野先生は日本の行動分析学のリーダー的存在として研究に邁進し、日本行動分析学会の理事長も務められた。国際的にも活躍され、退職される前年度も在外研究でオーストラリアに赴かれるなど、退職間際まで研究を精力的に続けられた。今後も国際学会でのスピーカーをつとめる予定もあるなど、まだまだ現役の研究者を続けられるということで、本学を去られるのは誠に惜しいと感じるのは私だけではないであろう。

小野先生の精力的な活動は、ご研究だけに留まらない。1979 年に専任講師として着任して以来 38 年間、校内業務も積極的にこなされた。1998 年に社会学科から心理学科が独立した際には心理学科主任を務められ、その直後、2001 年に大学院に心理学専攻と臨床心理学専攻が設置される際には、心理学専攻主任も務められた。2003 年に臨床心理学コースが財団法人日本臨床心理士資格認定協会より「臨床心理士養成指定大学院 (第 1 種)」の指定を受けたが、その際も関連機関との交渉を重ねられた。また、記憶に新しいところでは、教務部長も務められるなど、心理学科のみならず大学に対しての貢献には計り知れないものがある。

学内外で要職を兼ねたが、決して偉ぶるところのない先生であった。秋重門下の後輩には、谷口先生、茅原先生、間島先生がおり、最後までその長男的風情を貫かれた。また毎年恒例の深沢キャンパスで開かれる園遊会 (心理学科懇親会) では、ユーモアたっぷりに「駒澤大学心理学科飛躍の三段締め」を取り仕切り、そのお姿は教員・学生の脳裏に深く焼き付いていることであろう。いつまでもお元気でいらして、これからも先生特有のギャグをかましながら、飄々とした風情でときおり我々後進を叱咤激励してくだされば、と思う。